

伝統工芸品「大阪金剛簾」など 簾に関わるさまざまな資料を収集・展示



蕨桁（こもげた）と呼ばれる古来の道具で織り上げられた「亀甲簾」

簾製作に関わる道具や機械、歴史的価値の高い国内外の簾など、数多くの資料を集めたのが河内長野市にある「すだれ資料館」です。国の伝統的工芸品「大阪金剛簾」についても紹介しています。

中国・前漢時代の書物に 日本では万葉集に登場

簾が文献に登場するのは、中国の書物で、紀元前の前漢時代のことでした。その後、朝鮮半島にも伝わり、日本では7世紀、奈良時代の『万葉集』で額田王が恋の歌の中に「簾」を詠んだのが最初とされています。平安時代中期以降は、絵巻物の中で寝殿造りの重要な調度品としてたびたび描かれるようになりました。簾は部屋の仕切りとしての役割だけでなく、御簾として神と人との境界や、身分の高い人と庶民を隔てる道具としても用いられ、神社仏閣や貴族の住まいに浸透していききました。やがて日よけなどの用途でも庶民の暮らしに広く取り入れられるようになります。簾の材料には竹や木、葦などの植物が使われますが、野原などで繁殖するセイタカアワダチソウを乾燥させて作った珍しい簾もあります。主な素材である竹から竹ひごを量産できる機械が登場し、大量

生産が可能になったのは大正時代の終わり頃からでした。

金剛山や葛城山系の 真竹を使った大阪金剛簾

江戸時代前期、現在の富田林市に流れついた武士が竹細工の技術を村人に教えたことから、この地で竹かご作りが始まりました。市内を流れる石川流域では良質の真竹が採れ、やがて簾も作られるようになります。

1960年頃に簾の生産はピークを迎えます。そして河内長野市や富田林市などで生産される簾は「金剛簾」として1985年に大阪府から「大阪の伝統工芸品」に指定され、1996年には「大阪金剛簾」として国の伝統的工芸品に認定されました。

大阪金剛簾は、金剛山や葛城山系に生える青竹を使った、優雅で格調高い簾です。真竹はまっすぐに成長するように管理された竹林で育て、水分が最も少ない10月から翌2月にかけて伐採し、さらに約1

年間自然乾燥させてから使用します。現在でも全工程の6〜7割が手作業で、一般的に大きな製品でも完成までに約1カ月を要します。

絵画や掛け軸のような簾も

館内には芸術作品のような簾が並びます。材料にカラフルな羊毛を巻き付けて図柄を表現した「キルギス共和国の簾」（表紙写真）はタペストリーを思わせる仕上がりで特徴で、掛け軸のような「中国簾」は、竹ひごに多数の絹糸を巻いて織り上げたものです。縁起のよい文字を描いた「韓国簾」、素材を薄く切り抜き、江戸時代には油や酒、醤油など店の看板としても使われた「型抜き簾」も見どころです。



1 館内の様子。天井はインテリア用の簾で飾られている
2 「型抜き簾」の技法で装飾された「大阪金剛簾」の文字
3 同館がシンボルとしている格調高い御簾
4 青海波の模様で装飾された簾。江戸時代の駕籠（かご）に使用されていた
5 簾の種類や機械を紹介
6 7 左から「韓国簾」「中国簾」

大阪府ウォーキング協会主催 大阪シティ信用金庫協賛

大阪ウォーキング2026

8月のコースから一部をご紹介します

8月	曜	行事名	距離	最寄り駅・集合場所	集合時間	解散場所
9日	日	大阪環状線 駅からウオーク 今も賑わう!天神橋商店街を目指して歩く	7km	JR 福島駅	9:45	JR 大阪 天満宮駅
19日	水	なにわの歴史の道をたずねて	7km	JR 森ノ宮駅 森之宮公園	9:45	JR 天王寺駅
22日	土	貯木場と南港遊歩道を歩く	7km	大阪外口 住之江公園駅 住之江公園	9:45	大阪外口フェリー ターミナル駅
23日	日	平野郷・13口地蔵とおもしろ博物館めぐり	7km	JR 加美駅	9:45	JR 平野駅
30日	日	めんそーれ 大阪の沖縄へ 島唄が聴こえてくる 大正区ロマンウォーク	10km	JR 大正駅 大正橋公園	8:45	JR 大正駅

※参加費500円 事前お申し込み不要です。会場へ直接お越しください

大阪シティ信用金庫 河内長野支店

すだれ資料館

Data

〒586-0086 河内長野市天野町1014-1
TEL: 0721-53-1336 入館無料
【開館時間】月～金 10:00-16:00
事前予約制 (HPの予約フォームもしくはお電話にて)
【アクセス】近鉄・南海河内長野駅からバス③番乗り場から南海バス (425系統 旭ヶ丘行き天野山経由) 天野山バス停下車徒歩1分